



加茂市が進めるウォークアブル戦略と 体制の構築について

～ マチミチstudy現地勉強会in加茂 ～

令和5年10月23日
加茂市CSO 市川 恭嗣

加茂市は多くの小規模自治体と同様の課題を抱えています。
加えて、“ちょっと”個性的な前市政の大きな遺産とも向き合っています。
そんな加茂市がどのような経緯を経て「産官学金からなるエリアプラットフォーム構築を通じたウォーカブルなまちづくり」に舵を切ることになったのか、
地方小都市の未来づくりの現在地をお伝えします。

1. 平成～令和の加茂の行政
2. 自己紹介
3. ウォーカブル戦略の背景
4. 「エリプラ」「未来ビジョン」に向けた下ごしらえ
5. 活動の現在地
6. 最後に -地方小都市の未来づくり-



- 新潟県の中央部(県央地域)に位置
(隣接自治体は新潟市・五泉市・三条市・南蒲原郡田上町)
- 面積133.72km²、人口24,796人(R5年6月30日現在)
- **「北越の小京都」**。駅前1km以上に渡りアーケードが架かる商店街が続き、隣接する加茂川・加茂山とともに市民の憩いの空間を形成
- **桐ダンス生産量日本一**の木工の町。近隣市の下請けとして電気器具、機械、金属。稲作・果樹(ルレクチ工、桃ほか)栽培も

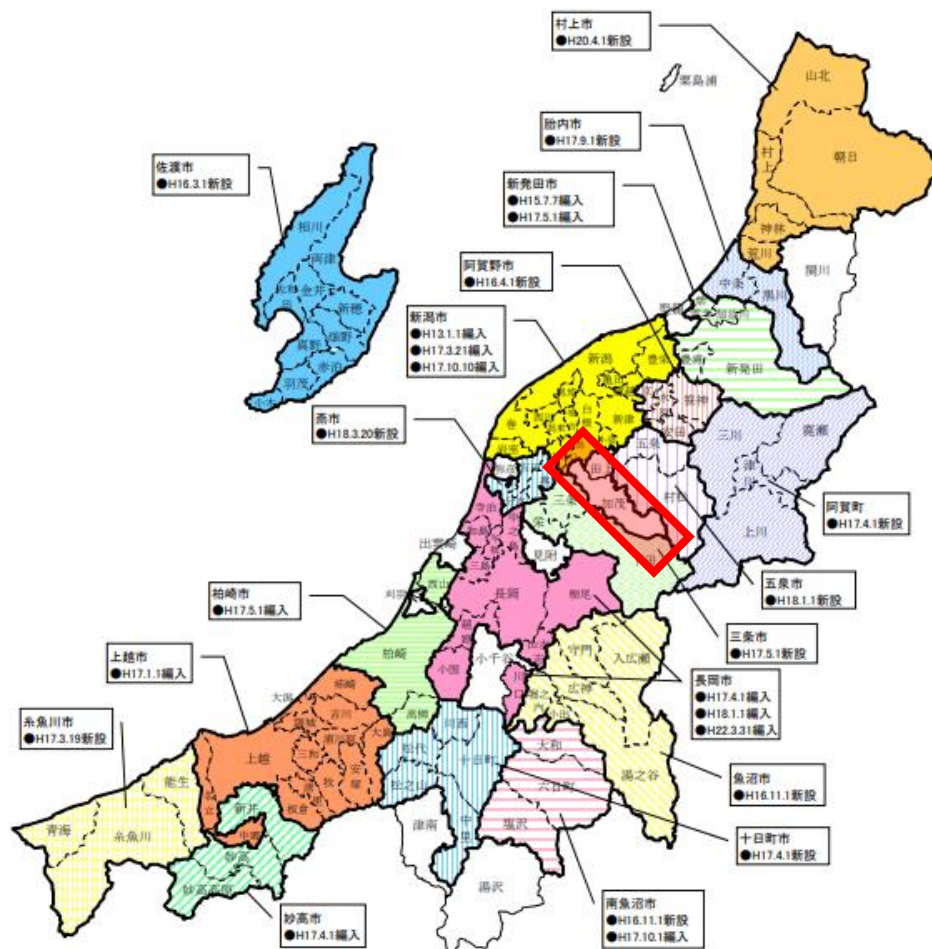




平成～令和の加茂の行政

- ① 平成：24年間の前市政
- ② 令和：現市政による立て直し
- ③ 今後の課題

新潟県は112⇒30市町村と合併の優等生。…も、加茂市は最後まで反対したため新潟県内で最少人口の市に



24年間に渡り、大きな政府/保護主義的な「公助」による行政運営を展開

※退任時の「市民の皆様へお別れの御挨拶」より成果部分を抜粋

- 日本一の福祉の体制
- 加茂市中に張りめぐらされた市民バス路線網
- 日本一のスクールバスの体制
- 日本一のコミュニティセンターの体制と百円風呂
- 商店街への手厚い保護と郊外型大型店の市内参入拒否
- 二百万円までの無担保無保証人融資、手厚い企業向け融資
- 農機具購入費補助制度
- ゴミ袋の有料化を行わない、ゴミ袋の自由
- 自主防災組織をつくらない、防災訓練を行わない

言わずもがな財政状況は悪化、H29年度決算では驚異の財調87万円に…

日本経済新聞 2013年(平成25年)11月24日(日曜日)

都市財政、際立つ格差

まちの家計、注目点は

■積立金 自治体が自由に使える年間財源に
対し、基金など積立金がどれだけあるかを比べ
た。高齢者福祉や保育所などのニーズの高まり
に、積立金で対応する市が目立つ。復興関連の
基金を積み増した陸前高田市(岩手県)、気仙沼
市(宮城県)など被災自治体は残高が急増した。

積立金が少ない

順位	市町村	率(%)
①	横浜市(神奈川県)	3.56%
②	加茂市(新潟県)	3.79
③	入間市(埼玉県)	4.63
④	千葉市(千葉県)	4.80
⑤	朝霞市(埼玉県)	4.97
⑥	広島市(広島県)	5.09
⑦	三浦市(神奈川県)	5.64
⑧	伊勢原市(神奈川県)	5.86
⑨	銚子市(千葉県)	7.26
⑩	座間市(神奈川県)	7.39

812市区12年度 NEEDS分析

17年度決算

県内市町村の2017年度決算の概要を公表した。自治体の財政状況は、財政調整基金の残高は785億円、16年度より156億円減少した。一方で財政の健全性を示す「経常収支比率」は、県内全体では92.2%と0.4ポイント改善したが、20市町村で悪化した。30市町村のうち最も財政が悪化したのは加茂市で、同比率が最悪の99.9%。基金は最少の87万円だった。

県は30日、県内30市町村の2017年度決算の概要を公表した。自治体の財政状況は、財政調整基金の残高は785億円、16年度より156億円減少した。一方で財政の健全性を示す「経常収支比率」は、県内全体では92.2%と0.4ポイント改善したが、20市町村で悪化した。30市町村のうち最も財政が悪化したのは加茂市で、同比率が最悪の99.9%。基金は最少の87万円だった。

県内市町村の財政状況(2017年度)

経常収支比率(%)	財政調整基金(万円)	
99.9	加茂市	87
97.4	胎内市	71226
95.9	三条市	674894
95.7	糸魚川市	172466
95.3	十日町市	210841
95.0	柏崎市	337962
95.0	南魚沼市	229301
94.0	上越市	1070177
93.3	長岡市	389802
92.4	新潟市	181157
92.2	阿賀町	166081
92.1	佐渡市	717772
91.2	村上市	54510
91.0	燕市	246535
90.9	新発田市	312504
90.5	聖籠町	47693
90.4	見附市	82815

比率が高いほど財政が健全化

除雪費のため取り崩し、残高は県内最少の87万2千円に加茂市は16年度で760万円の底をついた。最高は0万円あった基金の大半を上越市の約107億円、財政調整基金の90%以上の自治体を記載。

政令市の新潟市は約18億円だった。比率が100%に近づくほど政策の自由度が低くなることを示す経常収支比率は、過去10年の県内自治体では、07年に中越沖地震に見舞われた柏崎市が08年度に101.9%となったのに次ぐ高い数値だ。加茂市を含め佐渡市や胎内市など計20市町村が前年より悪化。17市町村が90%超で、新潟市が90%超で、ものの92.4%だった。

県市町村課は「財政の先行きは厳しく、各市町村が中長期的なシミュレーションを行い、住民に分かりやすく説明することが必要だ」と指摘する。

加茂市企画財政課は「優先度の低い公共施設の修繕などを先送りしてしのぐしかない。今冬は暖冬になっしてくることを祈っている」と話した。

加茂市 基金残高87万円

県内市町村 除雪費追い打ち

県内市町村の財政状況は、財政調整基金の残高は785億円、16年度より156億円減少した。一方で財政の健全性を示す「経常収支比率」は、県内全体では92.2%と0.4ポイント改善したが、20市町村で悪化した。30市町村のうち最も財政が悪化したのは加茂市で、同比率が最悪の99.9%。基金は最少の87万円だった。

政令市の新潟市は約18億円だった。比率が100%に近づくほど政策の自由度が低くなることを示す経常収支比率は、過去10年の県内自治体では、07年に中越沖地震に見舞われた柏崎市が08年度に101.9%となったのに次ぐ高い数値だ。加茂市を含め佐渡市や胎内市など計20市町村が前年より悪化。17市町村が90%超で、新潟市が90%超で、ものの92.4%だった。

県市町村課は「財政の先行きは厳しく、各市町村が中長期的なシミュレーションを行い、住民に分かりやすく説明することが必要だ」と指摘する。

加茂市企画財政課は「優先度の低い公共施設の修繕などを先送りしてしのぐしかない。今冬は暖冬になっしてくることを祈っている」と話した。

2018年(平) 12月 土曜

文化の記憶

アボリネールの観望詩「雪」3連目。空で料理人がチヨウの羽をむしって投げ、それが雪になるのだという。新潟の雪もこの程度ならよいのだが。

早読み 3分

喜 美

家の作品を買って来た。

怒 外

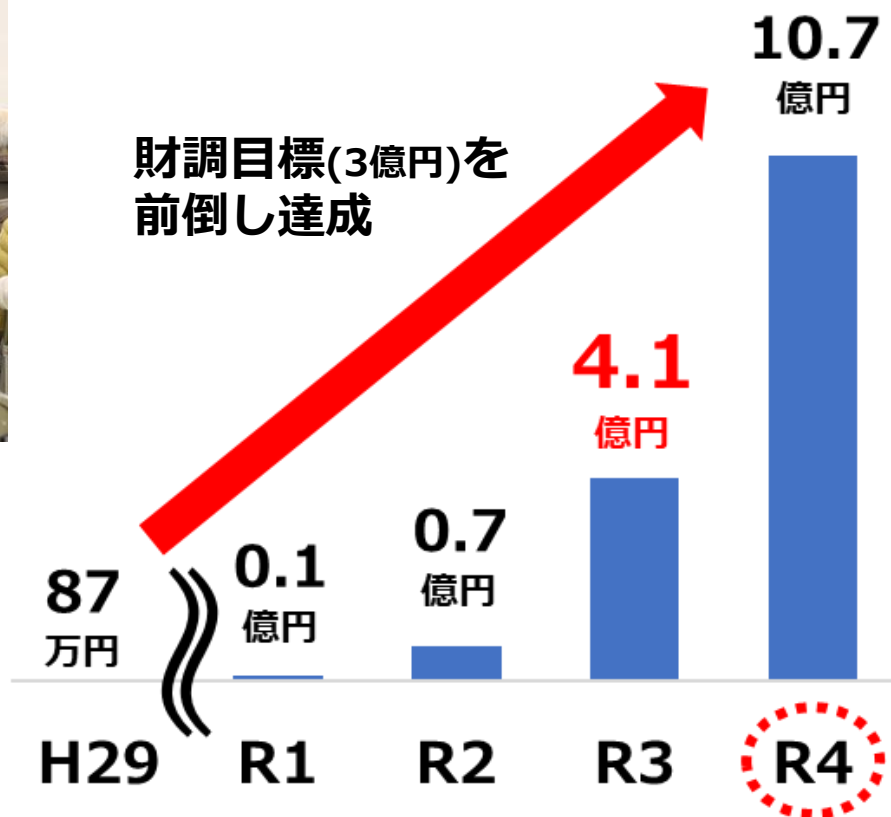
シャープ 働いていたが、今年にとうが分かつ田の中



平成～令和の加茂の行政

- ①平成：24年間の前市政
- ②令和：現市政による立て直し
- ③今後の課題

市民・行政が一丸となった取り組みにより、財調は10億円を超える水準に。「目先のおカネに困る」状態は脱した



**R3年度に約四半世紀ぶりとなる総合計画を策定。「当たり前
前の自治体」をスローガンに、旧市政では独自施策の財源
ねん出のために先送りされてきた(準義務的な)事業に着手**



※R1年度以降に着手した主な「当たり前」事業

- **各種計画策定**
 - 総合計画、都市マスタープラン、環境基本計画、温暖化対策基本計画、人権教育啓発推進計画、男女共同参画推進計画…etc.
- **地番図の更新（26年ぶり）**
- **証明書コンビニ交付**
- **校務支援システム導入、保育園ICT化**
- **ゴミ分別、袋の制限**
- **総合防災訓練（30年ぶり）**



平成～令和の加茂の行政

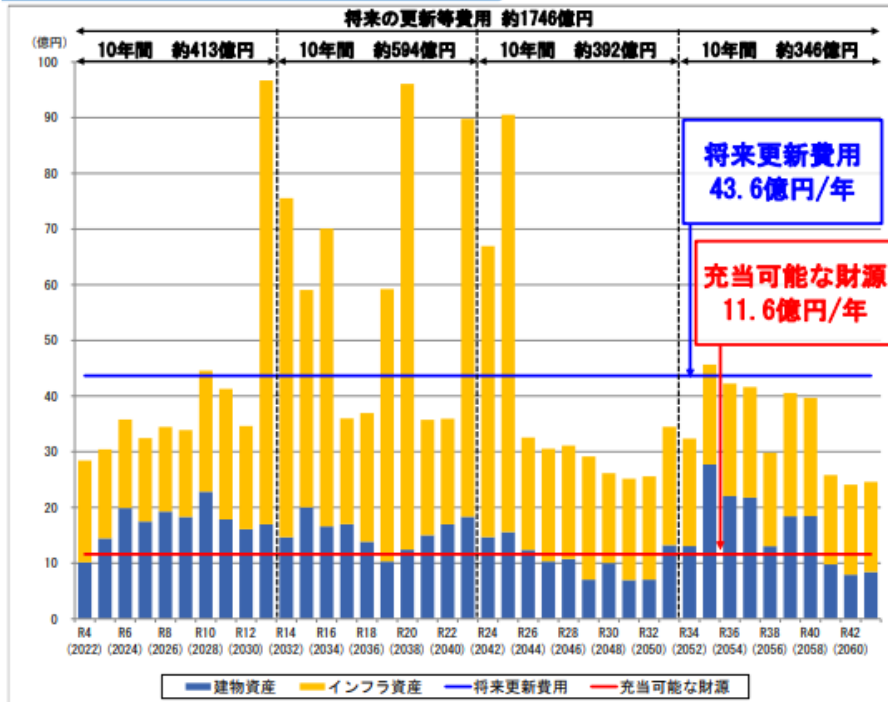
- ①平成：24年間の前市政
- ②令和：現市政による立て直し
- ③今後の課題

まだまだ、「お金がない！」



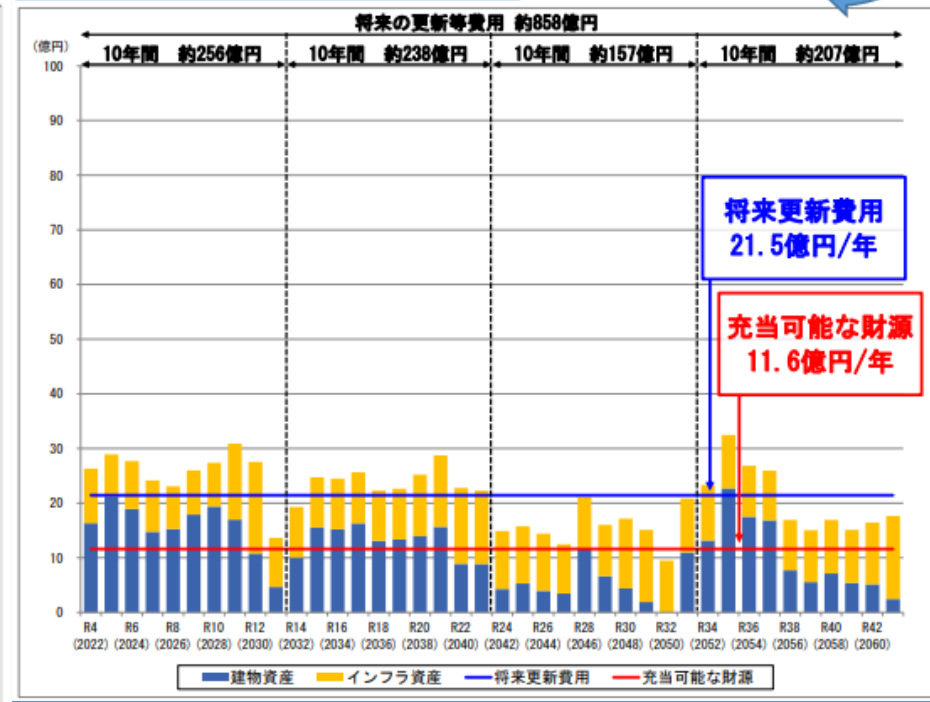
■建物・インフラ資産の将来の更新等費用

耐用年数経過時に単純更新した場合（自然体）

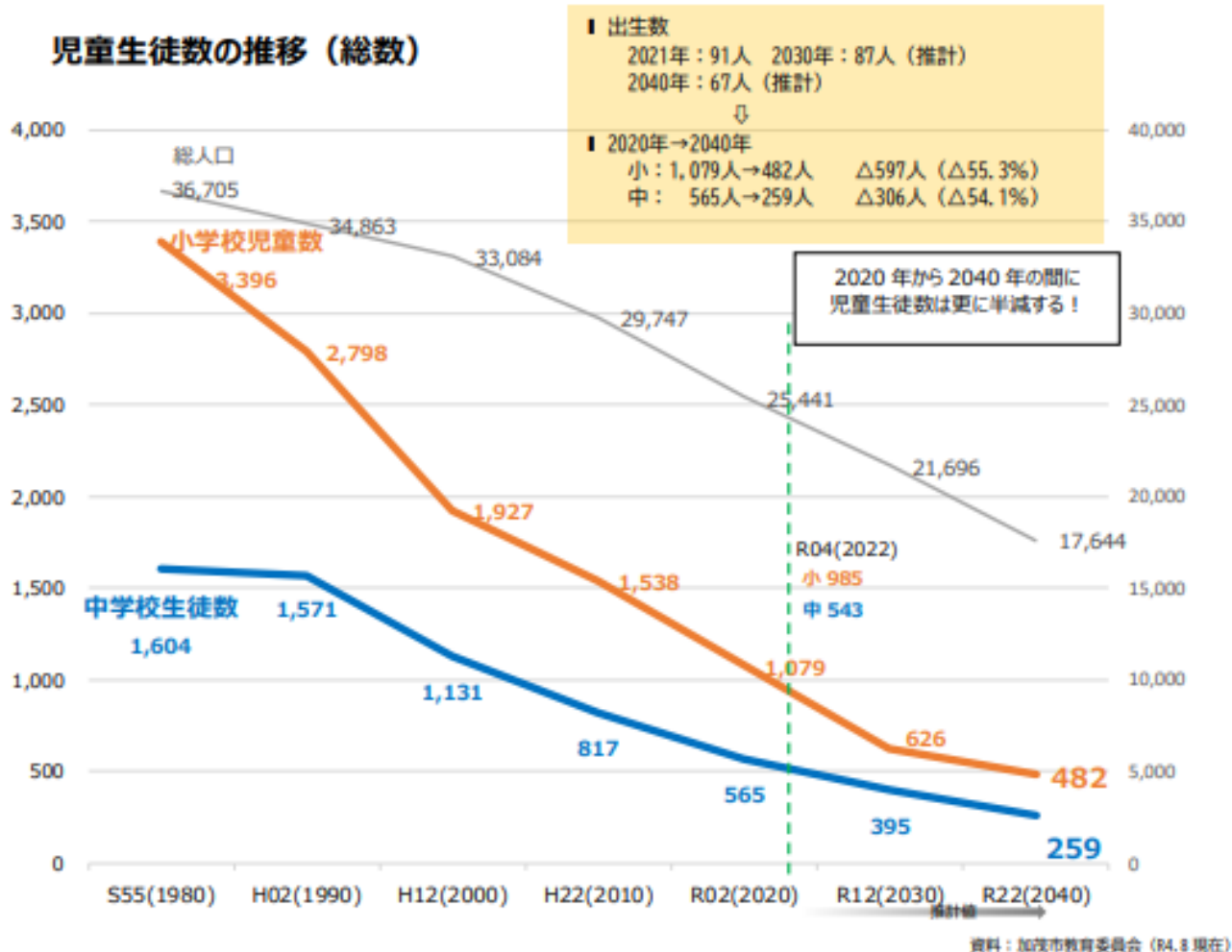


長寿命化の対策等を実施した場合（対策後）

縮減効果
約22.1億円/年



今の公共施設・インフラを維持するだけで、
(長寿命化をしても)約10億円/年足りない。



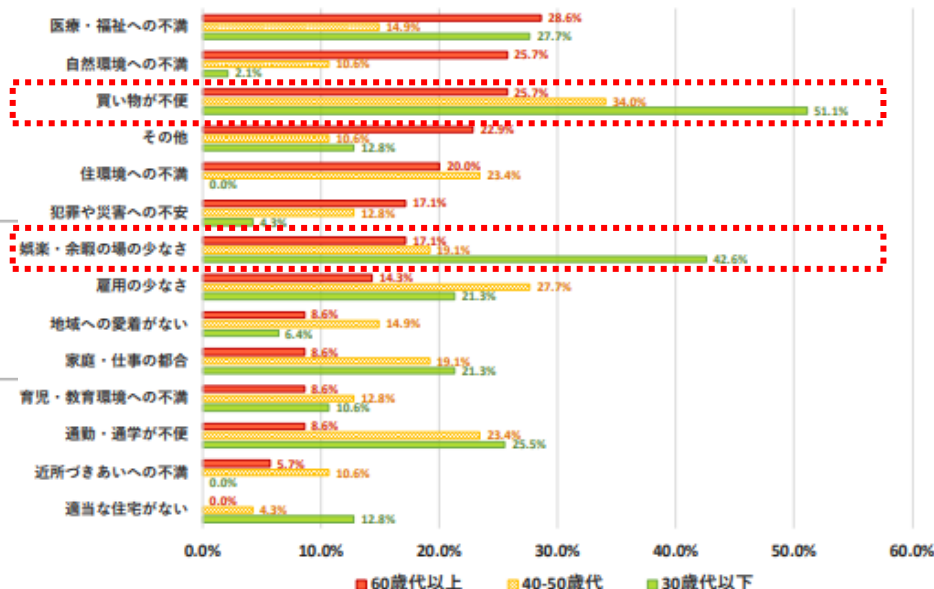
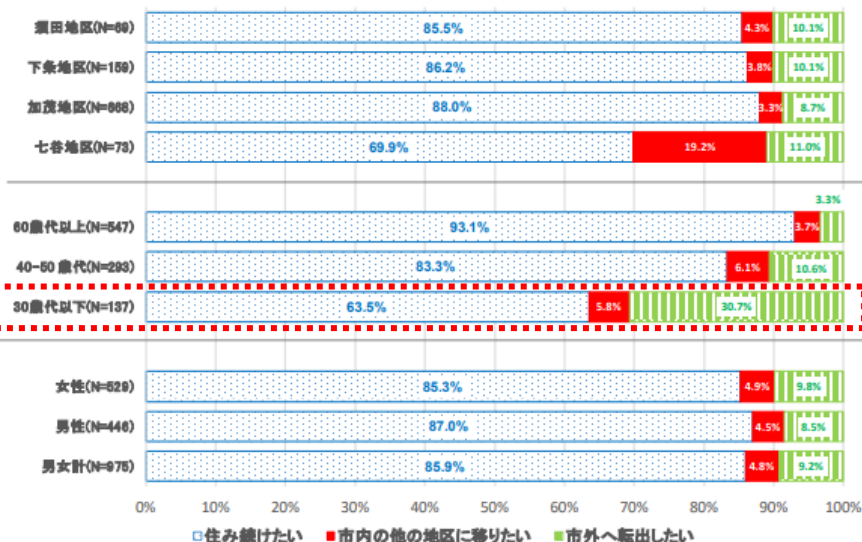
毎年100人生まれて500人いなくなる
（ $\Delta 400$ 人/年！！）

若者が住み続けたくないまち



(1) これからも加茂市に住み続けたいと思いますか(問9)

性別、年齢区分別、地区別回答者割合



**30歳以下の市民の30%が住み続けたいと思っていない
主な理由は「買い物が不便」「娯楽・余暇の場の少なさ」**



自己紹介

総合計画に定めた各種目標の実現に向けた行財政運営の更なるテコ入れを目的に、地域プロジェクトマネージャー制度を活用しR4年10月にCSO(最高戦略責任者)を登用

選ばれた人だけのハイクラス転職サイト
BIZREACH

採用をご検討中の企業様へ
ご利用ガイド Q&A キャリア・転職コラム ログイン

マイページ 職務経歴書 メッセージ 求人検索 ヘッドハンター検索 公募・特集

転職サイト ビズリーチ > 公募・特集 > 新潟県加茂市

新潟県加茂市



まちづくりCSOとともに作る「笑顔あふれるまち 加茂」の未来

新潟県のほぼ中央に位置し、古くから「北越の小京都」といわれる加茂市。2021年10月には27年ぶりに「加茂市総合計画」が策定され、加茂市の今、そしてこれからのビジョンが明確に打ち出されました。今回は、その計画に基づく取り組みを推進し、今後のまちづくりを担う「加茂市まちづくりCSO（最高戦略責任者）」を募集。加茂市が描く現状のまちづくり戦略や同ポジションへの期待などについて、藤田市長にお話を伺いました。

本ページの求人の募集は終了しました。

募集期間：2022年5月31日（火）～ 2022年6月27日（月）

本ページの求人は、「プレミアムステージ」をご利用でなくても、ビズリーチ会員であればどこでも閲覧、応募が可能です。

LINEで送る ツイート シェア

「健康」「教育・文化」を重点化しながら、市民中心のまちづくりを推進

加茂市長／藤田 明美

——はじめに、加茂市の特徴や魅力について教えてください。

「加茂」という地名が表すとおり、京都の上賀茂神社、賀茂御祖神社（通称、下鴨神社）と深い関わりがあります。同社の祭神が、加茂市の鎮守社である青海神社に分霊されて社鎮になったことから「加茂」と呼ばれ、神社寺院が多く建立されたまちが形成されて「北越の小京都」と称されるようになりました。



※地域プロマネ制度概要

■ 人物像

- 地域の実情の理解、専門的知識・仕事経験を通じた人脈の活用、受入団体及び地域との信頼関係の構築 etc

■ 地方財政措置

- 地域プロジェクトマネージャーの雇用に要する経費を対象に、**650万円/人**を上限に特別交付税措置
- 1市町村あたり**2人**、1人あたり**3年間**を上限

■ 地域要件

- 3大都市圏内又は3大都市圏外都市地域から、条件不利地域へ住民票を異動（地域おこし協力隊と同様）
- ただし、現地在住の地域おこし協力隊OB・OG、地域活性化起業人OB・OGから任用される場合には移住は求めない

応募者260人から選ばれ、CSOに

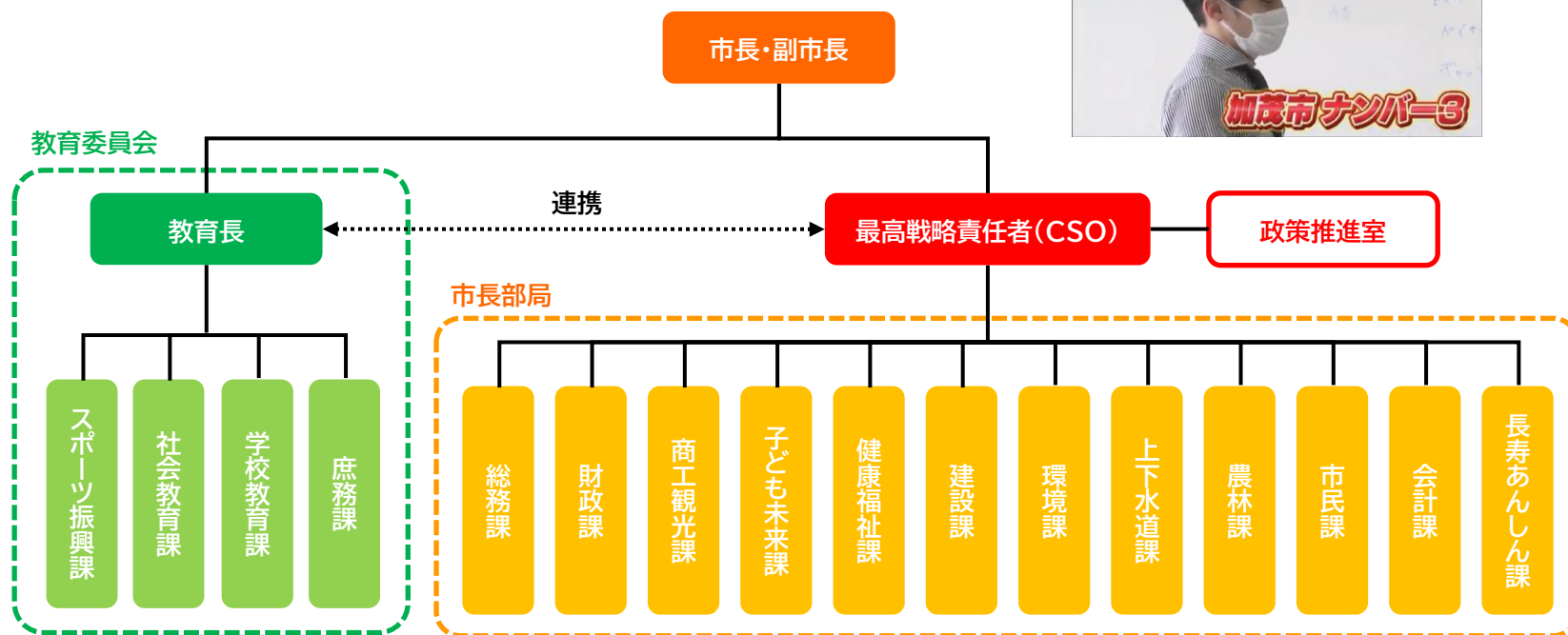


市川 恭嗣 (いちかわ たかし)

- 1988年、愛知県豊橋市生まれ (35歳)
- 京都大学卒業後、電力会社、国会議員秘書を経て総合商社にて勤務
 - 新規ITサービス立上げ(大手企業、海外政府向け)
 - ベンチャー、スタートアップ企業との協業スキーム構築
 - 企業買収・売却(M&A)
 - 大手自動車メーカー出向(グループ戦略・経営企画)
 - 海外子会社経営(タイIT会社の副社長)
- (ちょっと)できること
戦略策定、プロジェクト管理、トヨタ式経営、組織基盤強化、IT利活用
- これまで居住・就労したまち
愛知(豊橋、名古屋)、京都、東京、千葉(市川)、静岡(沼津、三島、浜松、湖西)、
海外(ニューヨーク、バンコク)



- ① 持続可能かつ戦略的な行財政に向けた取り組み
- ② 組織運営基盤強化
- ③ 全庁規模の重要施策の遂行
- ④ 産学官連携の加速



着任報道

■ R4.10.3 NHK 新潟ニュース610

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/niigata/20221003/1030022786.html>

■ R4.10.3 NST News タッチ

<https://youtu.be/Z0wUYVtJVdg>

密着取材

■ R4.11.10 BSN NEWS ゆうなび

<https://youtu.be/K5yj2nYl4Co>

バラエティ番組

■ NST「潟ちゅーぶ」

- R5.3.4 新潟県の小京都・加茂市の市民は小京都を感じてない！？
- R5.3.11 はじめしゃちょー新潟の加茂市に来た理由とは！？
- R5.4.23 視聴者還元！加茂市CSO推薦ふるさと納税返礼品
- R5.9.10 スティーブ・ジョブズが新潟・加茂市に来ていた！？

■ R5.9.1 NST特番「このまちまんざい」（スリムクラブと共演）





ウォーカブル戦略の背景

先にも述べたように、加茂市の課題は

1. お金がない！（自主財源の脆弱性）

- ① 住民税収(≒人口)増：そもそも△400人／年ペースが20年続く見通し
- ② 法人税収(≒企業)増：ベンチャー誘致は差別化に困難
- ③ 寄付(≒ふるさと納税)増：R1～R3で10倍増(0.5→5億)のため伸びしろ△

2. 人がいない！（若年層が住み続けない）

- ① 年400人ペースでの人口減少が今後20年続く見通し
- ② その結果2020年から2040年の間に児童生徒数が半減

3. 魅力がない！（住んでいる人の認識として）

- ① 加茂市に住み続けたいと思わない人の割合が、30代以下の約30%を占める
- ② 中学生の約60%が「住めない・住み続けたくない」という衝撃的な結果も…

⇒ 大規模な財政出動に頼ることなく、加茂市という地域が
(市内外の)人を引き付けるような魅力度の向上が必要

⇒ 自分たちが持っているアセットの見つめ直しに着手

● もともと「歩きたくなる」都市構造

- ① JR加茂駅から伸びる約1.4kmの商店街
(長生きストリート)
- ② 上記中心市街地に隣接した癒しの空間
 - 加茂山(青海神社・公園)
 - 加茂川(河川敷緑地)
- ③ ①×②により、元来自動車不要のコンパクトシティを形成



<今後解決を図るべき課題>

- コロナ禍を契機とした中心市街地の店舗数減少
- 上記アセットの有効活用による回遊性・滞在性向上
 - 宿泊施設や若者の居場所など、行政だけでは取組困難な分野が存在

- **中心市街地でのイベント時には大きな賑わい**
 - **市内各所から老若男女問わず参加する市民性**

- ① 行政主体：雪椿まつりetc.
- ② 会議所主体：加茂川夏まつりetc.
- ③ 商店街主体：大通り春まつり、秋まつりetc.
- ④ 神社主体：春季祭礼、秋季祭礼etc.
- ⑤ 民間団体主体：加茂川を泳ぐ鯉のぼりetc.



＜今後解決を図るべき課題＞

- **各種イベントのあり方の見直し**

- 行政による補助金や担い手代行の限界
- 手段(イベント開催)の目的化の是正
- (市内外問わず)新たな担い手の掘り起こし(チャンスメイク)



● 自助・共助の広がり（公助からの巣立ち）

➤ 市内で多様な組織・団体の自主的な活動が活性化

例）かも健康長寿県内No.1プロジェクトとの連携による「ウォーキング」を通じた健康増進活動

新潟大や新潟経営大、加茂市内の高校の学生・教員による地域連携活動やまちづくり演習を通じた課題解決に向けた各種活動



＜今後解決を図るべき課題＞

- 組織・団体の垣根を越えた連携体制の構築
- 活動の継続性・持続可能性の確保

前提条件の整理と自己分析を踏まえ、

- ウォーカブルなまちづくり
 - 市民が主導のまちづくり
 - 多様なステークホルダーによる共創のまちづくり
- を施策の軸となるテーマに設定

上記キーワードに沿ったまちづくりを進めるため、

⇒ ウォーカブル推進都市に加盟(R4.6)

⇒ 国土交通省の官民連携まちなか再生推進事業を活用

- エリアプラットフォームの構築
- 未来ビジョンの策定

に向けて、R5年度から本格的に取り組みを開始

官民連携まちなか再生推進事業

令和4年度当初予算 3.4億円
令和4年度補正予算 2.0億円

官民の様々な人材が集積する**エリアプラットフォームの構築**やエリアの将来像を明確にした**未来ビジョンの策定**、ビジョンを実現するための**自立・自走型システムの構築**に向けた取組を総合的に支援し、多様な人材の集積や投資を惹きつける都市の魅力・国際競争力の強化を図る。

未来ビジョン策定とビジョン実現のための自立・自走型システムの構築への支援



市民や地元事業者が主体となったまちづくりを定常的なものにするためには、仕組みづくりが不可欠

- ① 内外のステークホルダーが集い、まちづくりのための事業提案、仲間づくりができる場

➡ 「エリアプラットフォーム」

- ② 多様なステークホルダーが共感できるまちづくりの指針・目標

➡ 「未来ビジョン」



**「エリプ^ラ」「未来ビジョン」
に向けた下ごしらえ**

30

様々なステークホルダーが会し、共創のきっかけとなる**出会いの場**が必要

学生が市の様々なステークホルダーに提言を行い、両者が立場を越えまちづくりを考えるフォーラムを開催

(主催：加茂商工会議所、共催：新潟経営大学、加茂市)



主な参加団体

- (産業界) 商工会議所、商店街協同組合、金融機関、JA、各組合
- (行政) 市、市議会、三条地域振興局
- (学校) 大学 新潟経営大学、新潟大学、明治大学
高校 加茂高等学校、加茂農林高等学校、加茂暁星高等学校
- (その他) 青年会議所、その他団体・関係者



明治大学

「公共政策フォーラムでの提案を踏まえて」



新潟経営大学

「観光まちづくりでの地域内連携と交流人口獲得」



新潟大学

「地域リーダープログラムを通じた現状と課題」

総勢**150名以上**

認知度がないと「ヒト・モノ・カネ」は集まらない。**発信力が課題**だが、既存の市内プレイヤーでは対応が難しい。

メディアによる新しい地域創成モデルづくりを目指すNST 新潟総合テレビと連携。

Press Release

報道関係者各位

2023年5月29日

NST



NST 新しい地方創生への貢献を目指す 加茂市と包括連携協定を締結

NST新潟総合テレビ（本社：新潟市中央区八千代 2-3-1 代表取締役社長：酒井昌彦 以下NST）は、加茂市（市長：藤田明美）と、以下の通り、5月29日に包括連携協定を締結いたします。

1.経緯と目的

NSTは、県内各地域が抱える課題の解決に貢献するため、開局55周年事業「NST FUTURE ACTION」の一環として、各自治体との新しい連携を進めるべく取り組んでいます。

第一弾として、今年3月に「企業版ふるさと納税※」を活用し、加茂市の「加茂七谷温泉 美人の湯でのアウトドア事業」に対して1,000万円の寄付を行いました。

この度、第二弾として、NSTと加茂市は包括連携協定を締結することで合意しました。

加茂市は国土交通省の「令和5年度 官民連携まちなか再生推進事業」に採択されるなど、加茂駅周辺を中心とした地域の魅力向上に取り組んでいます。NSTは「エリアプラットフォーム準備協議会」に委員として参画し、加茂市の未来のまちづくりに貢献して参ります。また魅力あふれる観光資源や物産を、放送や配信、イベントなどで紹介することによって、加茂市の認知度・ブランド力向上に繋がっていきます。これらの取り組みを通じて、他にもNSTの強みを活かした新しい地域活性化策を、加茂市と連携し模索して参ります。



「全粒の小京都」として知られる加茂市に異変!? 市民は異変を感じていますか?

そろそろやめない小京都
まだまだやりたい小京都



市内外の知見者が参加し、現状分析や方向性を集中討議

日程	第1回 (11/22)	第2回 (12/5)	第3回 (12/22)	第4回 (1/17)
検討内容	● 現状分析 ● 対象エリア	● 対象エリア課題と将来像 ● 未来ビジョンに向けた施策概要	● 未来ビジョン検討体制 ● R5スケジュール、R6以降事業予定	● 検討結果まとめ

西村 道博 氏	加茂商工会議所顧問
田辺 良夫 氏	加茂市商店街協同組合理事長
萩野 正和 氏	(株)connel代表、柏市まちづくり公社事務局長など兼任。エリアマネジメントの専門家
松井 大輔 氏	新潟大学准教授。地方都市の再生、歴史的建造物/景観の利活用が専門
加藤 はと子 氏	全国「道の駅」女性駅長会長
加茂市役所	建設課、商工観光課、政策推進室(事務局)

<キーワード>

- ◎ 交通再編による**アクセス性**の向上
- ◎ 既存ストックを活用した**滞在性・回遊性**の向上
- ◎ 賑わいを生む**まちなかの拠点**づくり
- ◎ **最高に幸せな日常**を感じるまちのブランディング

『チャレンジを応援し、活気あるまち』

「市外・県外の事業者との戦略的なパートナーシップに積極的に取り組みます。市の目指す方向性や共に解決したい社会課題を明確に提示し、制約を設けることなくオープンでスピード感のある対応を心がけることで、1期目は全国でも先進的と言えるいくつかの取り組みを始めることができました」



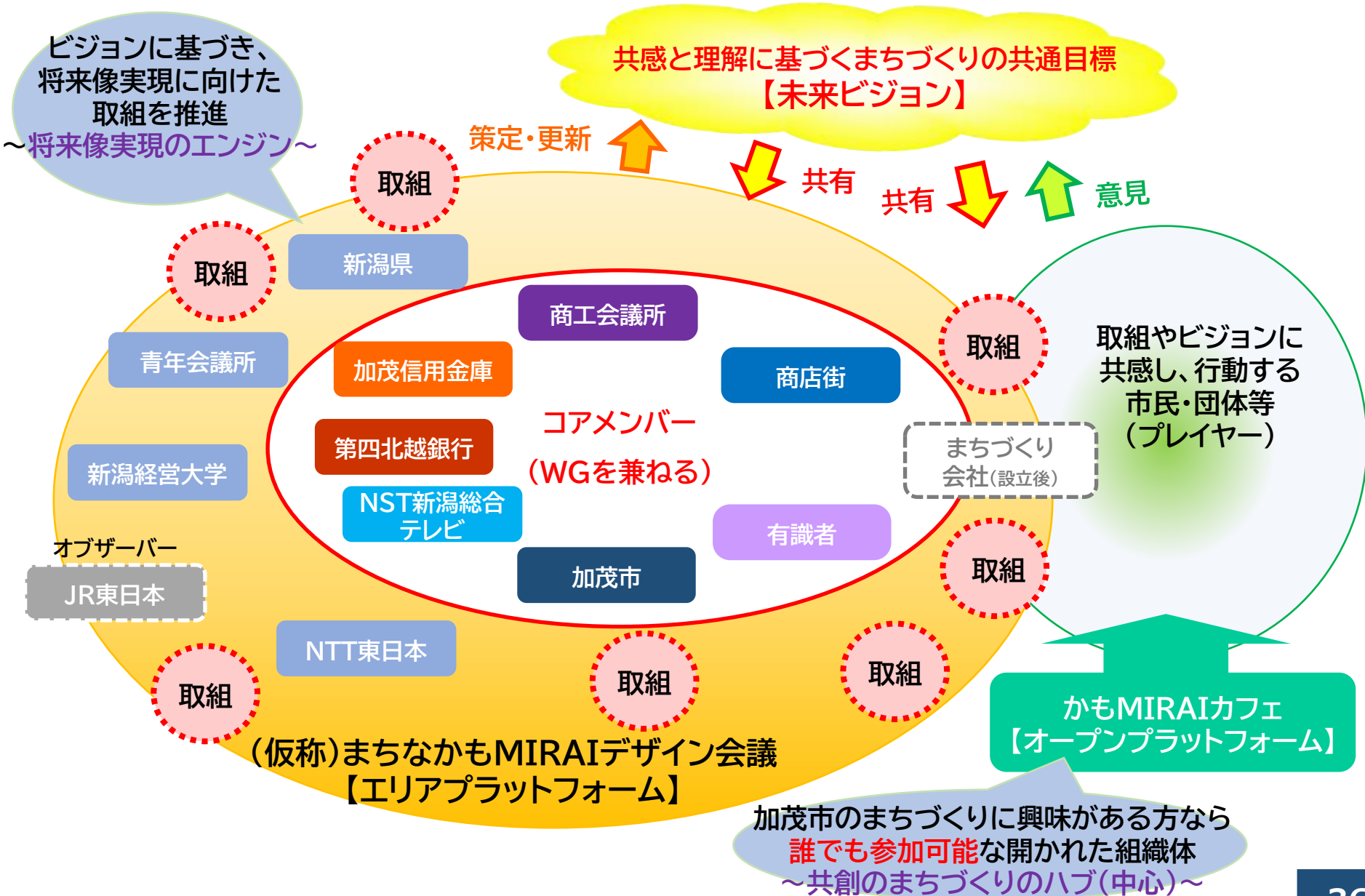
「加茂市に住む、関わる全ての人々が主役」となって、主体的に活躍できるまちづくりを支援するための仕組みを整えます。

(中略)民間事業者によるまちづくり会社の立ち上げや、様々な事業主体によるまちなかエリア内でのにぎわい創出に向けた取組を支援します」



活動の現在地

エリアプラットフォーム構成



未来ビジョンの実現に向けた全体協議・調整・情報共有が主な役割

全体会

(現協議会メンバーをベースに構成)

- 全体協議・調整・情報共有
- 予算・決算の審議・決定 等

コアメンバー

(現ワーキングメンバーをベースに構成)

- 未来ビジョンの策定・進捗管理・改定検討
- 新たな取組の検討・提案 等

まちづくり会社(新設)

- エリアプラットフォームとして取り組む事業の実施
- 未来ビジョンに共感するプレイヤーとの連携・中間支援 等

取組やビジョンに共感し、
行動する市民・団体等
(プレイヤー)

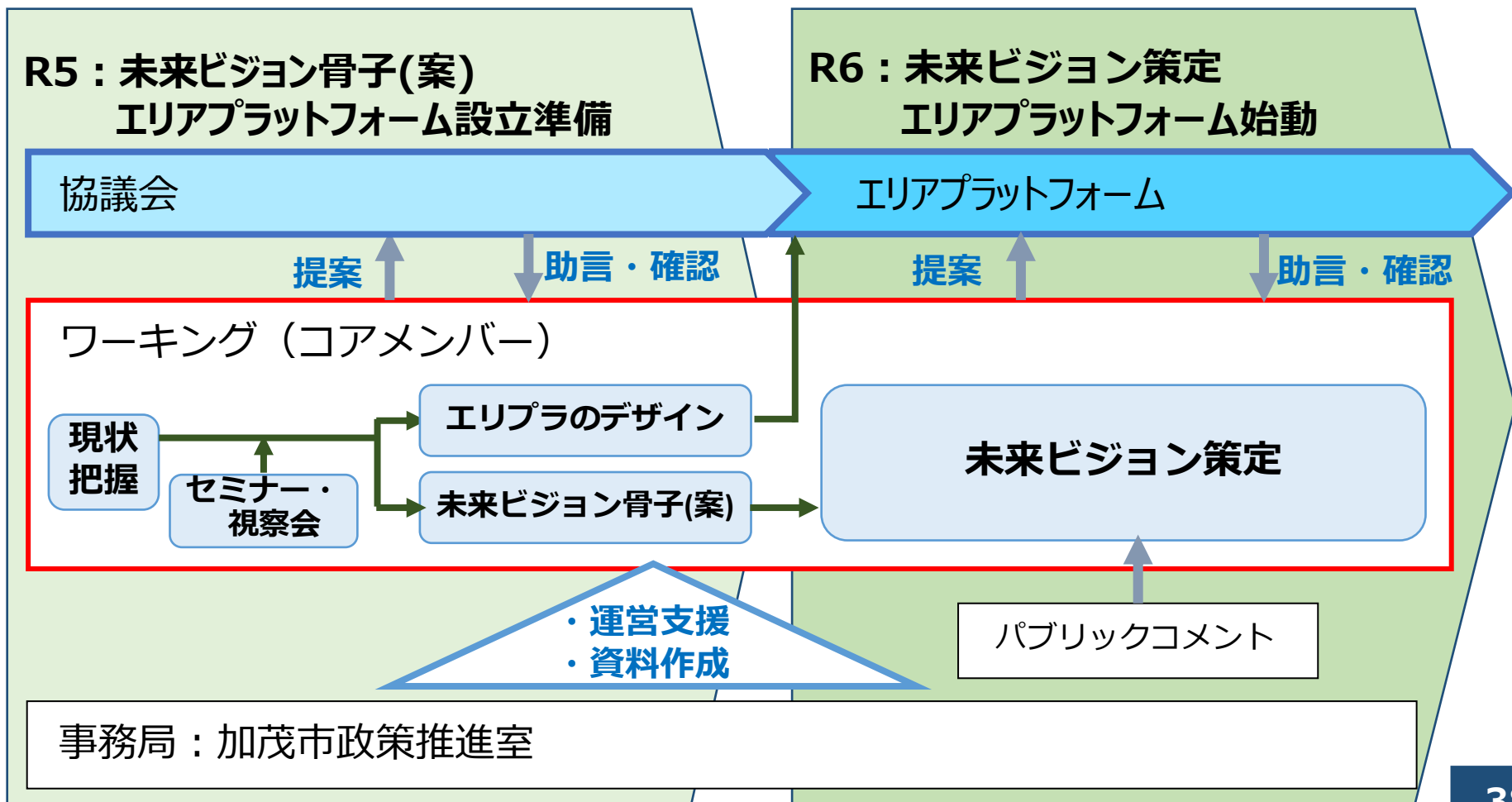
【R5】協議会の下に、ワーキングを設置

▶ワーキングにおいて、エリアプラットフォームのデザイン、未来ビジョン骨子(案)検討

【R6】協議会はエリアプラットフォームに移行し活動を始動

ワーキングは引き続き、未来ビジョンを検討・策定

【R7以降】未来ビジョンに基づく取組を官民連携で推進





第1回準備協議会	セミナー	第1回WG	第2回WG	第2回準備協議会
【議事内容】 ・当事業について ・これまでの検討状況 & エリア内現状分析 ・今後のスケジュール	【議事内容】 ・講師によるエリアプラットフォームや未来ビジョンの解説。 ・その他議論状況に合わせた内容展開予定。	【議事内容】 ・前回議論振り返り ・到達点確認 ・まちなかエリアで活躍するプレイヤー活動状況 & 資源・資産について ・まちなかエリアの今後 ・エリアプラットフォームでの役割	【議事内容】 ・これまでの議論を踏まえ、エリアプラットフォーム & 未来ビジョン設立・策定に向けた今後の方針案を検討	【議事内容】 ・検討経過報告 ・到達点確認 ・エリアプラットフォームでの役割 ・未来ビジョン骨子（案）について



AP方針、体制、
構成員、財源等
未来ビジョン
骨子案構成検討

AP設立後事業計画、規約等、案作成
未来ビジョン骨子(詳細)案作成

AP設立前
最終確認

AP設立、
未来ビジョン
骨子案の完成

第3回WG

【議事内容】

- ・ 前回議論の振返り
- ・ 到達点確認
- ・ 未来ビジョン骨子(案)について
- ・ 持続可能なエリアプラットフォームの体制等について

第4回WG

【議事内容】

- ・ 前回議論の振返り
- ・ 到達点確認
- ・ 未来ビジョン骨子(詳細案)について
- ・ エリアプラットフォーム(案)について

第3回準備協議会

【議事内容】

- ・ 検討経過報告
- ・ 到達点確認
- ・ 未来ビジョン骨子(詳細案)について
- ・ エリアプラットフォーム(案)について

第5回WG

【議事内容】

- ・ 前回議論の振返り
- ・ 到達点確認
- ・ 未来ビジョン骨子(案)最終確認について
- ・ エリアプラットフォーム(案)最終確認について

第4回準備協議会 & AP設立総会

【議事内容】

- ・ 検討経過報告
- ・ エリアプラットフォーム(案)について
- ・ 未来ビジョン骨子(案)について

R6夏頃
APによる未来ビジョン策定

加茂川と加茂山公園を含む、JR加茂駅から東に約1kmに渡る商店街を中心としたエリアを想定(西側の田園地域と東側の中山間地域の中間に位置)



◆コンパクトで歩きやすい環境

JR加茂駅から伸びる、近代化されたアーケード付き商店街を中心に、個性的な街路や街区、加茂山・加茂川といったまちの資産がコンパクトに集積し、歩きやすい環境が整っている。

◆人口比に対する駅利用者数が多い

加茂駅を利用して通学する高校が3校、大学と短大が各1校あり、学生を中心に、人口（約2万5千人）比における駅利用者が非常に多い。

◆歴史的文化財が点在

◆商店街→個性的な店舗多数



アーケード商店街



加茂山



加茂川



JR加茂駅



青海神社

◆ヒトの滞留や回遊が生まれにくく、賑わい創出や消費活動に結びつかない。

- ・ 駅利用者や商店街周辺自然空間利用者が商店街まで足を延ばさない
- ・ 駅周辺のパブリックスペース（公共空間）不足



イベント時に商店街まで人が来ない

◆観光客のピーク時に、それを活かす環境ができていない。

- ・ 宿泊施設/駐車場数・視認性不足
- ・ イベント時の情報発信力不足
- ・ 個々で行われ連携されていないまちづくり・賑わいづくりの活動



- ◆ 商店街空間らしいデザイン配慮不足
- ◆ バリアフリー化できてない駅舎

機会

◆コロナ禍での社会変容

- ・「屋外」という魅力価値の向上
- ・場所を選ばない働き方（リモートワーク等）



◆DX、移住、二拠点居住トレンド

◆地方創生ブーム

◆インバウンドの復活



脅威

◆高齢化・人口減少による店舗廃業リスク

◆施設等の老朽化

◆小売業の販売方法の変化

- ・インターネットによる無店舗販売等、消費行動の変化



キーワード

居心地のよさ

まちの資源を活かす

歩いて楽しめる

必要な要素

地域住民の生活の質向上

商店街を中心軸に
周辺資源の関連付け

回遊性と滞在性の向上

熟慮すべき4つの軸

交通再編による アクセス性の向上	● JR加茂駅及び駅前広場の再整備による都市交流機能の強化を目指す ● 当該エリアに適した交通手段とまち歩きを組合せることで回遊性と滞在性の向上を図る
既存ストックを活用した滞在性・回遊性の向上	● 空き家・空き店舗を有効活用した宿泊施設等により滞在性の向上と消費活動の促進を図る ● 空き地を活用したイベントや週末駐車場の設置等により利便性の向上と賑わいの創出を図る
賑わいを生むまちなかの拠点づくり	● 地域のつながりや賑わいを再生する多世代交流の場として、地域拠点の整備を図る ● まち全体の情報の集積・発信を担うまちのシンボルとしての「ショーケース」化を推進する
最高に幸せな日常を感じるまちのブランディング	● 既存アセットを磨き上げ、加茂に暮らす人々が日々を生き生きと楽しむ姿を日常的なコンテンツとしてブランディングし、市の内外に向けて発信することで、各種(関係、交流、移住、定住)人口の増加を図る

WGのアウトプット～まちなかエリアの未来

若者世代の目線で、ありたいまち・暮らしの意見を頂きました



若者が利用しやすいお交流の場・居場所のある暮らし

リーズナブル 利用できる場	お金がなくても 楽しめる	学生でも入り やすい店	大学生が入り やすいバー
学生向けの飲 食	ガスト、マック で放課後	お茶する、集 まる場がある	授業終わって から飲みに行 ける
学生ターゲッ トのお店	マックがいこ いの場	飲みに行く場 がある	大学生同士が 学校の近くで 飲める店
チェーン店が ない。酒を飲 むところ	安く飲める場 所	三条や新潟で 飲む人も	コスパ の良い お店
プリクラ、カラ オケ	学生が電車を まてるタダの 場所	新潟と三条は 半分 若干、三 条方面が多い	

座れる場所が たくさんある	専門書がある 図書館(広域 利用)	長時間居座れ る居心地の良 い図書館	大きい公園が ある(人と目 が合わない)
フリースペー ス、フリーwifi、 居場所がある	メリア3階	風景にまぎれら れる心理的安全 性のある屋外の 場所	ダンスグループ等が練 習で使ったりできる
河川敷	加茂川の河 川敷を活用	地域にどっぷり つかれる場所	座れる場所 wi-fi

外から人を呼 べる場所、お店	加茂高生をター ゲットにした商 店が近くにない	遊ぶ場所、飲む 場所、目的にな る場がある	古着屋
-------------------	-------------------------------	-----------------------------	-----

楽しめる
場所

活躍の場や機会のあるまち

学生活動のア ンテナショッ プ 例)農林	加茂市内の農 林業の産直の お店	学生の活動が 認知、応援さ れている
まちとして学 生の活動を応 援する	自己現実の環 境がある	やっているこ とが評価され る

就業の場

売上げをあげ られる	学びが卒業生 させる(農林 →農業)	バイト先
---------------	--------------------------	------

交通・移動

電車利用者は スポーツ、運 動部が多い	駐輪場を利用	大学のバスを 利用	乗降で4000 人/日くらい
加茂高校西口 を使う	駅利用者 定 期9割弱、7割 くらい通学	歩いて大学へ 行く(まちなか を通らない)	意外と公共交 通を使ってい ない

住環境

大学周辺に住 む人もいる	まずは住んで いる人にとっ て心地がよい	外の人が回遊 できる歩かせる ルートと店
-----------------	----------------------------	----------------------------

WGのアウトプット～まちなかエリアの未来

子育て世代の目線で、ありたいまち・暮らしの意見を頂きました



子どもと過ごせる、家族で楽しくおでかけできる暮らし

自然に囲まれた広場で子どもと伸び伸びと遊ばせるスペースが欲しい	公園がある(キレイなトイレ付)	子供:あそべる、親:昼寝、子供・親:ネット環境、食べる	休日親子で過ごせる場所(公園)
ショッピングモール(家族で買い物を楽しめる)	レストラン	親と子供共有の居場所→また連れていこうとなる	子どもと一緒にまちなかで楽しむ(思い出をつくる)ことができる
スポーツ観戦できる場所	図書館	スポーツ施設	スペースの中でゆっくりできる場所(カフェ、食事できる所)
加茂川を見ながら食事を楽しめる空間	散歩コース		

子育て世帯に優しいまち

バリアフリー、ベビーカー対応	学童保育	子育てで困った時に助けてくれる場所や活動がある
熱を出した子どもを預かってもらえる	働いている時に安心して子どもをあずける場所がある	医療施設
子ども預かって買い物できるとよい	子育てする親どうしが交流することができる場所がある	子どもがさわいでもおこられないような雰囲気や場所がある

家族のお出かけで使いやすい駐車場

加茂山公園、メリアはとめやすい。多目的広場の駐車場も少し使いやすく	パークアンドライド・GOできる駐車場(メリアも)	付近に駐車場あり	広い駐車場(ゆとりをもっとめられる)
-----------------------------------	--------------------------	----------	--------------------

子どもが楽しめるまち

雨や雪でも安心して子ども達が遊べる場所	体を動かせる場所がある	駄菓子屋	遊具がもう少しあると良い(加茂山公園)
---------------------	-------------	------	---------------------

暮らしやすさ

生活に関連する情報を得やすい	ライフイベントの情報が欲しい	安価に生活品をそろえることができる
----------------	----------------	-------------------

子ども教育

塾

教育、習い事の拠点、会議セミナー、イベントスペース 例)塾、ピアノ、水泳、体操

安全安心

治安がいい

夜も安心できる

便利(来訪者にも)

拠点としてハブとして高速鉄道、高速バス、ビジネスホテル

交通の便がいい

コンパクト、スマート、ハイテクティ 例)無人EV、JR and 道の駅

WGのアウトプット～まちなかエリアの未来

シニア世代の目線で、ありたいまち・暮らし
の意見を頂きました



コミュニケーション・交流のある暮らし

昔話に花を咲かせやすい

近所の友達がふらっと寄ってくれる

高齢者になっても働ける場所(コミュニティに参加するツールとして)

コミュニティを作りやすい空間

早朝カフェ、ウォーキングの途中で立ち話など

デジタルネイティブなシニア層が集う場所

サークル活動で街のガイド

人が集まる憩いの場所(公園、ゲートボール、運動)

高齢者へコミュニティへの参加する事の重要度をセミナーで説明(孤独の大変さを説明)

- ・商店街(駅～新町)の各所休憩スポット
- ・ウォーキングのコースとして活用
- ・カフェなど人と話ができる場所
- ・65～69歳の健康な人がターゲット

健康で安心できる暮らし

明るい陽が当たらない(熱中症防止)

皆で見守りができたほうがいい

福祉施設が充実、医療施設が充実

健康で過ごせる環境

介護について将来的な安心感がある

市役所と高齢者向け病院、マンションの合築

高齢者向けのシェアハウス、見守りサービス

アクティブで安全に活動(運動)できる場所がある

のんびりと佇める場所がある

健康年齢を維持するために、健康でいることへの評価をしてあげる(買い物ポイントのプレゼント)

家族のつながりのある暮らし

孫と遊びやすい、孫が遊びに来てくれるところ

子供、孫が遊べる場所があるといい

息子夫婦、孫と定期的に会い、山、川、商店街で休日を過ごす

2世帯居住(都会からの移住含む)への厚い補助、もしくは同居手当

移動や日常生活がに困らない暮らし

子供に免許を返納しろと言われない環境

自転車道路が整備されている

デイクアの車から降りやすい

公共交通が充実

まちなかエリアで生活ができる(買い物、移動)

自分の時間がある暮らし

孫を任せられすぎない

趣味に熱中できる日常

観光客の受け入れ

市内在住者と市外来客者のゾーニング

商店街に宿泊施設

安らぐ場所のある暮らし

川沿いのテラス席

まち中で佇める場所

商業などの後継者

- ・ポジティブなM&A(事業承継)
- ・起業支援

エリアの現状・課題

強み

- ・ コンパクトで歩きやすい環境
(全天候型ウォーカブル空間の商店街、商店街～加茂山～加茂川)
- ・ 人口比に対する駅利用者数が多い（高校生等若者）
- ・ 賑わい創出に活用できる歴史的文化財が点在
(青海神社、歴史的建築物、谷通り：懐かしい雰囲気のある街並み等)
- ・ 商店街は個性的な店舗多数で、スーパーや医療施設等の日常生活を支える都市機能が集積
- ・ 魅力的で癒しのオープンスペースである加茂川、加茂山

など

弱み

- ・ ヒトの滞留や回遊が生まれにくく、賑わい創出や消費活動に結びつかない。
(例:駅利用者が商店街を利用しない、若い世代の加茂の良さが知られていない、若者の居場所が不足、まちなかの情報が発信されていない、鉄道で駅の東西が分断等)
- ・ 観光客のピーク時に、それを活かす環境ができていない。
(例:宿泊施設、駐車場の不足・認識しにくい、加茂の名物を購入できる店舗等)
- ・ 商店街空間らしいデザイン配慮不足
- ・ バリアフリー化できてない駅舎
- ・ 加茂山公園は家族のお出かけ場として魅力不足
- ・ 子ども連れで過ごせる場所が不足
- ・ 駐車場が使いにくい（狭い）、わかりにくい

社会情勢の変化や新たなニーズ

機会

- ・ コロナ禍での社会変容
(例:屋外利用価値向上、リモートワーク、DX等)
- ・ 移住、二拠点居住トレンド
- ・ 地方創生ブーム
- ・ インバウンド、国内観光需要の復活
- ・ 旅行スタイルの少人数化・個人化
- ・ 高齢化を背景とした歩いてく暮らせるまちづくり、健康まちづくりへのニーズ

など

脅威

- ・ 高齢化・人口減少、世帯減少
→店舗廃業リスク
→空き家・空き店舗・空きスペースなど既存ストックの遊休化
- ・ 単身高齢世帯（孤独な高齢者）の増加
- ・ 若い世代の転出超過の継続
- ・ 施設の老朽化
- ・ 小売業の販売方法変化（高齢店主ではECやDX対応が難しい）
- ・ オーバーツーリズムへの懸念

など



まちなかエリアの課題とまちづくりの方向性

商店街

【課題】加茂駅を利用する若者（高校生等）は多いものの、まちなかを素通りしている

【方向性】若者を駅からまちなかに呼び込む機能の充実

【課題】既存の賑わいは商店街を軸とした単調な動線となっており、回遊空間としての奥行に欠ける

【方向性】みず（加茂川）・まち（商店街）・みどり（加茂山公園）をつなぐ軸の形成

【課題】1.5kmに及ぶ全天候型歩きやすい環境である一方、空き店舗・空き地が増加傾向

【方向性】賑わい創出や市民の活動・活躍場所としての空き店舗・空き地の有効活用

暮らし

【課題】居住者の高齢化が進行しており、高齢者が暮らしやすい環境を形成することが必要

【方向性】誰もが歩いて健康・便利に暮らせるまちなか居住

交通

【課題】鉄道で市街地が分断されており、東西の市街地の連携がなされていない

【方向性】JR加茂駅の都市交流機能の強化と東西の市街地間での新たな人の流れの創出

【課題】公共駐車場は、425台（休日対応）の容量があるが、イベント等のピーク時は不足

【方向性】駐車場の有効利用する工夫や空き地等の未利用スペースの有効活用

水・緑 オープン スペース

【課題】加茂川や加茂山公園はイベントなどで活用されているが、日常的な賑わいに活用されていない

【方向性】加茂川を軸とした賑わい・交流創出

【方向性】加茂山公園を拠点とした賑わい・交流創出

歴史文化

【課題】蔵や町屋建築、旧庄屋建築、谷通りなど趣のある通りが残っているが観光・回遊資源としての活用が不十分

【方向性】点在する歴史的資源を回遊拡大の交流機能として活用

【方向性】古き魅力や懐かしさを感じるウォークアブル空間の形成

まちなかエリアのコンセプトイメージ



まちなかエリアの将来イメージ(現時点)

- 歴史文化など
観光・交流資源
- まちなか小広場



みず・まち・みどりをつなぐ軸
(回遊に奥行きを与える)

若者を駅から
まちなかに
呼び込む機能の充実

東西市街地での
新たな人の流れによる
賑わい創出

既存の商業・飲食
集積

JR加茂駅の都市交流機能の強化

加茂山公園を拠点とした
賑わい・交流創出

駐車場の有効利用する工夫や空き地等の
未利用スペースの有効活用 (エリア全体)

加茂川を軸とした
賑わい・交流創出

賑わい創出や市民の活動・活躍場所として
の空き店舗・空き地の有効活用
誰もが歩いて健康・便利に暮らせる
商店街の活性化

点在する歴史的資源を
回遊拡大の交流機能
として活用

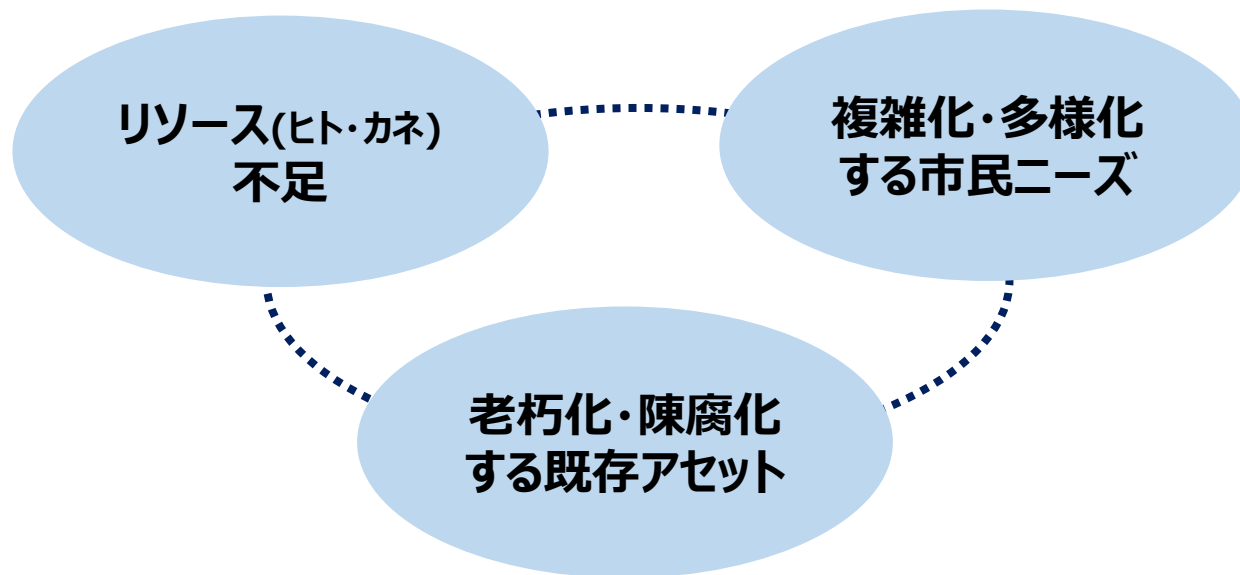
古き魅力や懐かしさを感じる
ウォークブル空間の形成





最後に

-地方小都市の未来づくり-



旧来型の大規模な財政出動を伴う行政主導の「まちづくり」では立ち行かない…

- 
- ① 産金学の専門知・ノウハウの活用
 - ② 市民が主体となった「自助・共助」のまちづくり
 - ③ 既存アセットの再評価・利活用
 - ④ 外部ステークホルダーの巻き込み



信用度を活かし、市外・県外のステークホルダーを巻き込むのは行政の役割

ただ…、

地域の魅力・賑わい創出は行政だけではできない

加えて…、

民間レベルでWin-Winでないと持続可能ではない



徐々に**市民や地元事業者が主体**となって
プレイヤー同士が連携して自走する姿を目指すべき
行政は黒子としてWin-Winとなるための仕掛け、
持続可能な**仕組みづくり**に注力すべき



市民や地元事業者が主体となったまちづくりを定常的なものにするためには、仕組みづくりが不可欠

- ① 内外のステークホルダーが集い、まちづくりのための事業提案、仲間づくりができる場

➡ 「エリアプラットフォーム」

- ② 多様なステークホルダーが共感できるまちづくりの指針・目標

➡ 「未来ビジョン」

自走はもう始まっています。





ご清聴ありがとうございました。